

10月うぶやま天文台星空情報1



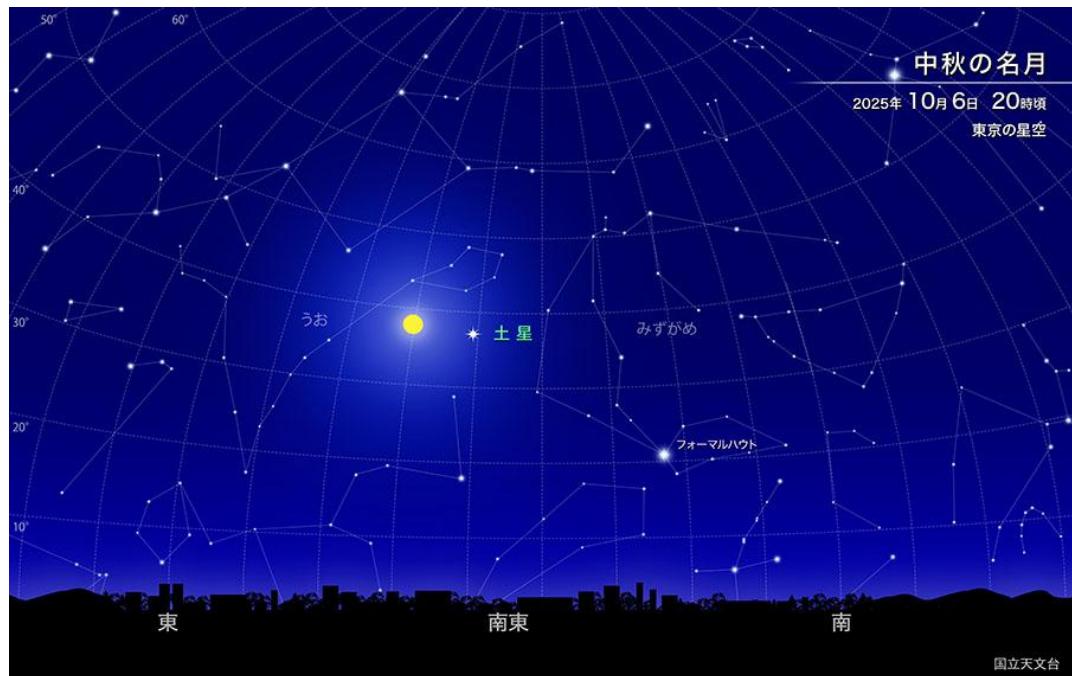
中秋の名月を見よう



天空が広がるうぶやまの高原は爽やかな秋風が吹いています。10月に入り、産山では朝夕15℃以下の過ごしやすい季節です。夜空はすっかり秋の星空になり、秋の夜長、絶好のスターオッチングシーズンの到来です。10月のうぶやまの星空情報の第1弾は、10月6日の中秋の名月です。

2025年の中秋の名月は、10月6日です。「中秋の名月」とは、太陽太陰暦(旧暦)の8月15日の夜に見える月のことです。中秋の名月をめでる習慣は、平安時代に中国から伝わったと言われています。日本では農業の行事と結びつき、「芋名月」などと呼ばれることもあります。今年は10月6日が中秋の名月、翌7日が満月と日付が1日ずれています。

太陽太陰暦では、新月(朔)の瞬間を含む日が、その月の朔日(ついたち)になります。今年は9月22日(新月の時間は4時54分)が太陽太陰暦の8月1日、10月6日が太陽太陰暦での8月15日になります。一方、天文學的な意味での満月(望)は、地球から見て太陽と反対方向になった瞬間の月のことです。満月の時刻は、10月7日12時48分です。今年のように、中秋の名月と満月の日付がずれることは、しばしば起こります。



中秋の名月

次に、中秋の明月と満月が同じ日付になるのは 2030 年です。今年は、中秋の名月の近くに土星が見えます。満月に近い月はとても明るいため、土星(0.6 等級)はやや見づらいかも知れませんが、今年の土星は環がとても緩やかに見えますのでぜひ天文台の大型望遠鏡で覗いてみてください。

さらに、日本独自の風習として、太陽太陰暦の 9 月 13 日の夜を「十三夜」と呼び、お月見が行われてきました。十三夜は、月の形から「栗明月」「豆明月」と呼ばれたり、中秋の名月「前の月」に対して「後(のち)の月」、中秋の名月と合わせて「二夜(ふたよ)の月」とも呼ばれたりもします。今年の十三夜は、11 月 2 日です。

まだまだ、西の空でわし座の1等星アルタイル、こと座の1等星ベガ、はくちょう座の1等星デネブを結ぶ夏の大三角、それら横切る天の川が産山では素晴らしい見えます。また、北東の空ではアンドロメダ銀河(M31)や秋の宝石といわれるペルセウス座の二重星団(h と χ)など素晴らしい星空が楽しめるうぶやま天文台にお出かけください。



ヘルクレス座球状星団 M13



こと座 環状星雲 M57



こぎつね座 惑星状星雲 M27



アンドロメダ銀河 M31



ペルセウス座 二重星団 h と χ